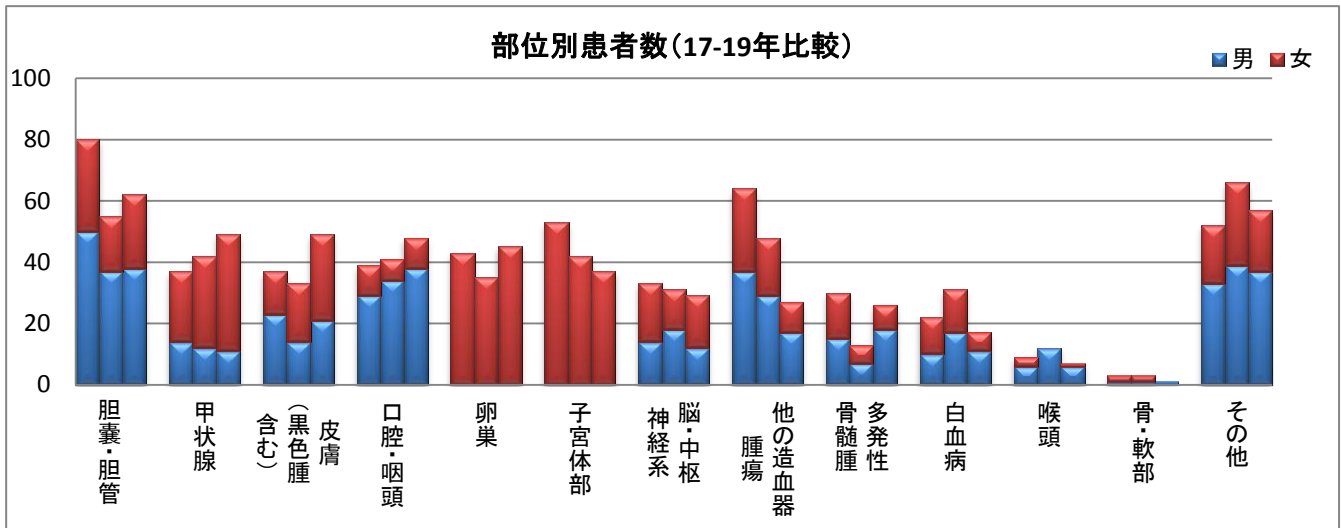
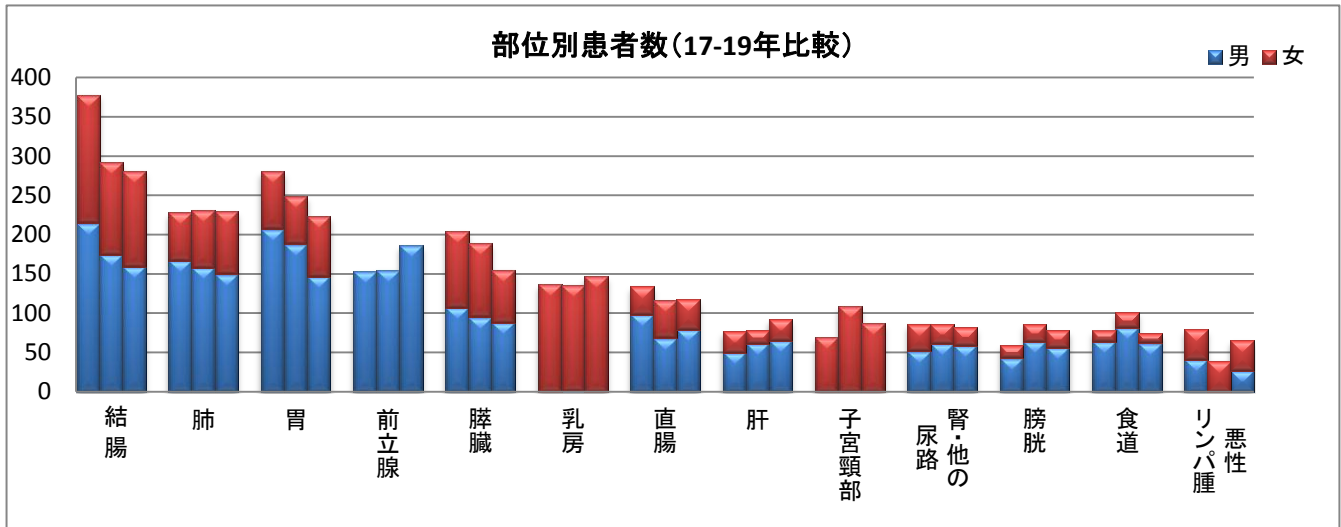


I. 2019年集計 <全部位>



行ラベル	結腸	肺	胃	前立腺	膵臓	乳房	直腸	肝	子宮頸部	腎・他の尿路	膀胱	食道
17年	378	228	280	153	204	137	134	77	69	86	59	78
18年	292	231	249	155	189	136	116	78	108	86	86	101
19年	281	230	223	186	155	147	117	92	87	82	78	74

	悪性リンパ腫	胆嚢・胆管	甲状腺	皮膚(黒色腫含む)	口腔・咽頭	卵巣	子宮体部	脳・中枢神経系	他の造血器腫瘍	多発性骨髄腫	白血病	喉頭	骨・軟部	その他	総計
17年	79	80	37	37	39	43	53	33	64	30	22	9	3	52	2464
18年	91	55	42	33	41	35	42	31	48	13	31	12	3	66	2370
19年	65	62	49	49	48	45	37	29	27	26	17	7	1	57	2271

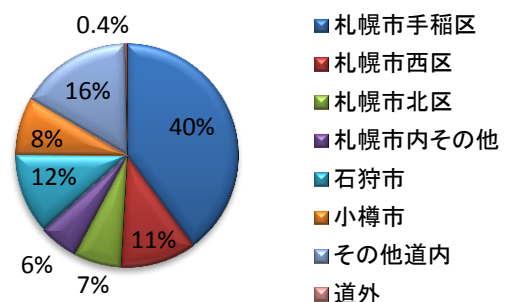
18年症例より多重がんの判定ルールが変更になったため、上位件数の部位(主に消化器系)の件数が減少している。

地域別患者件数

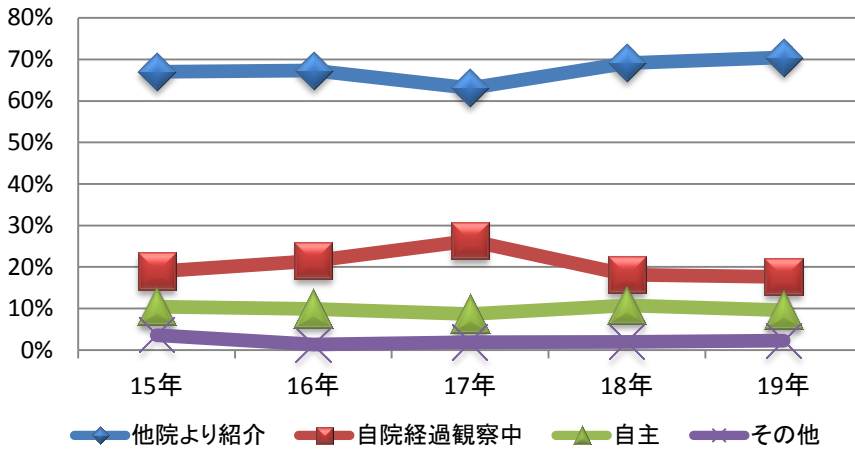
	札幌市手稲区	札幌市西区	札幌市北区	札幌市内その他	小樽市	石狩市	その他道内	道外
17年	933	273	133	140	258	266	455	6
18年	955	246	133	140	247	249	397	3
19年	906	250	156	128	265	190	368	8

診断時の患者居住地をもとにした地域別患者数では、北区と小樽市の患者数が前年より増加している。
19年単年の割合では、札幌市内が6割を占めており、市内からの受診が多くみられる。

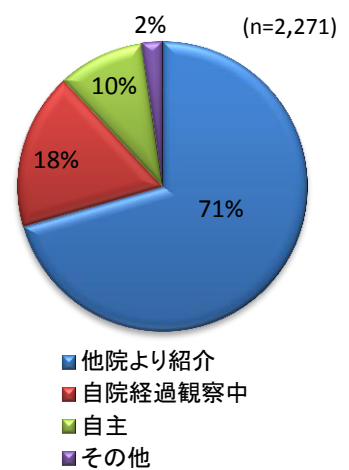
地域別患者数割合(19年) (n=2,271)



来院経路別割合

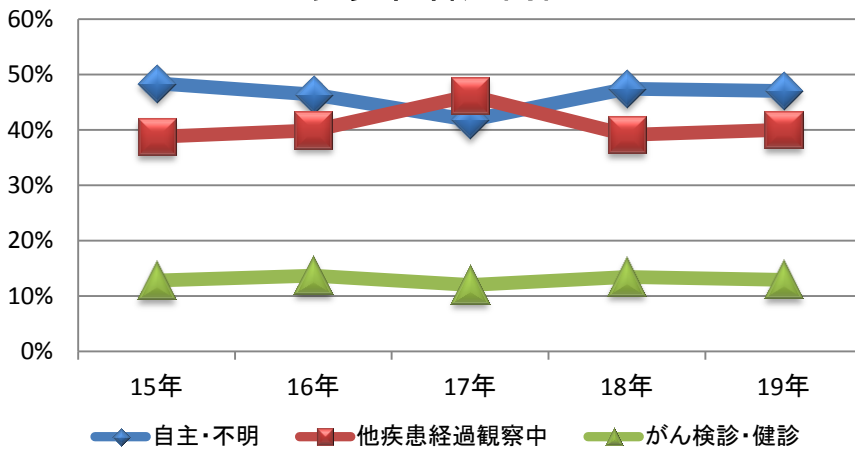


来院経路別割合(19年)

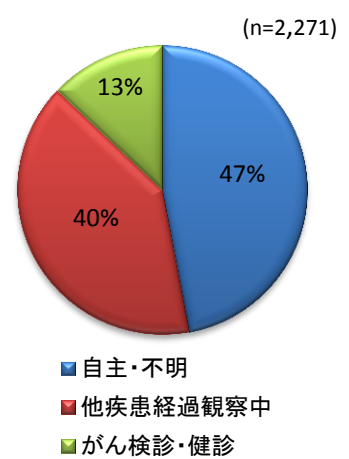


「他院より紹介」の割合が前年より増加しており、19年単年では「他院より紹介」の割合が約7割を占めている。

発見経緯別割合

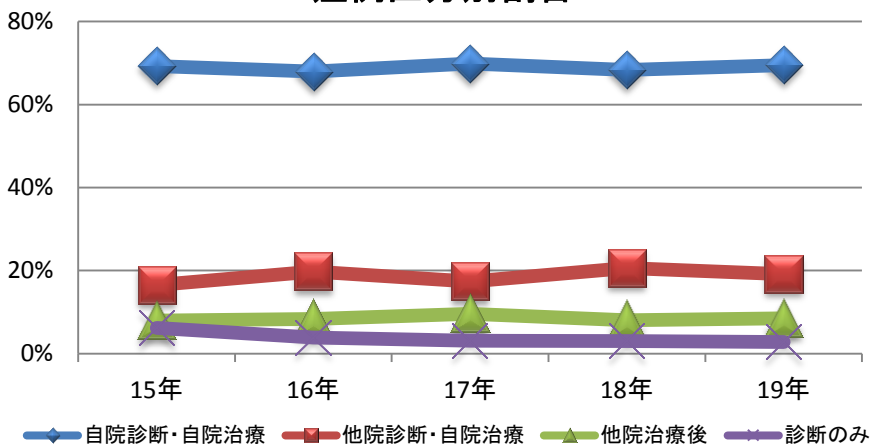


発見経緯別割合(19年)

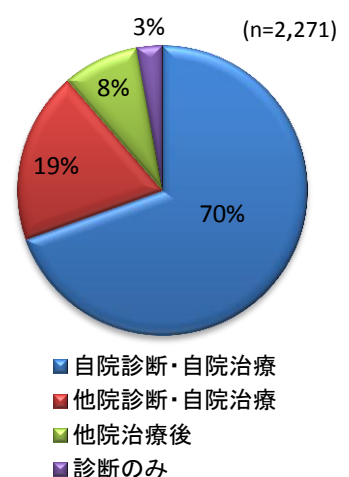


「自主・不明」の割合が前年より減少しており、19年単年では「自主・不明」の割合が約5割を占めている。

症例区分別割合



症例区分別割合(19年)



「自院診断・自院治療」の割合が前年より増加しており、19年単年では「自院診断・自院治療」の割合が7割を占めている。